広報紙かしの木

社会福祉法人
せたがや樫の木会
2020年7月発行
第27号

「新たな課題とともに新年度を迎えて」

令和２年度を迎え、新たに事務局長を迎え、所長をはじめとした職員等も異動や承認、採用により新たな体制で取組を進めているところです。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和２年度は、自粛に始まりました。昨年度から世界的に感染が広がった新型コロナウイルスの影響により、事業所運営もままならず利用者の皆様には感染防止に努め、利用に関しては自粛をお願いする中でスタートいたしました。

この間、利用者やご家族の皆様、関係の皆様、職員の皆様方には大変なご苦労をおかけいたしました。

おかげさまで利用者の方々やご家族、職員に関しては感染の情報はありません。皆様のご協力のおかげと感謝いたしております。

この新型コロナウイルスに関しましては、今後とも感染防止に努めながら事業の運営を行っていくことになると思います。引き続くご理解ご協力をお願いします。

４月に政府の緊急事態宣言の下、国民が自粛に努め、第一波を乗り越えてきたところで６月からは各事業所とも全面的な開所に向け事業の形態や施設設備の状況により、感染防止の体制をとりつつ利用者の皆様を受け入れ、通所や所内での生活等の見直しをしているところです。

各事業所により条件が違っていますので整備の状況は違ってくると思いますが、ご協力よろしくお願いいたします。

このような状況の中で、今年度の事業計画におきましては、これまでの年度と同様の事業を行っていくことは厳しい状況にあります。

新たな新型コロナウイルスの感染防止に長期的な取り組みを持続していくにはどうするかという中で、新たな日常という考え方が示されています。

手洗いやうがいの励行はもとより、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保つまり三密と言われる「密閉」「密集」「密接」を避けることが求められています。

特に多くの利用者の方が楽しみにしているイベント等の大勢の人が集まる行事やスポーツ、レクリエーション、宿泊行事、旅行等については慎重に考えていくことが求められると思います。

利用者の方々にとって、いろいろな体験をしつつメリハリのある生活を厳しい条件の中で考えていきたいと思っています。引き続きご理解ご協力をお願いし、命の大切さを基本に新たな日常の中で新たな取り組みを追求していきたいと思います。

理事長　岩井雄一

令和二年度　各事業所長　就任挨拶

本部事務局　成田　修　事務局長

お世話になります。４月に事務局長に着任いたしました成田と申します。よろしくお願い申し上げます。

法人と私の関わりということでは、昨年度は法人の理事などを経験させていただきましたが、その前には上町工房・どんぐりホームの施設立ち上げの際に、行政の担当職場に所属していたことから、その当時の法人の関係者の皆さんと一緒に、近隣にお住いの方々にお声掛けをして、施設建設のための地元説明会に出席した経験などがあります。

様々な課題を乗り越え、開所式での法人関係者の皆さんの晴れ晴れとした姿が、今でもとても印象に残る思い出となっています。

そして５年が経過し、この度、大変重要なポジションを担わせていただくことになりました。

新型コロナウイルスへの感染拡大防止への対応が続くなかでのスタートとなりましたが、利用者支援及び組織運営の視点からも様々な課題があると感じております。

利用者とご家族の皆さんにおかれては、日々、安心して活き活きと楽しく利用し成長していく場となる施設、そして地域での余暇活動など豊かな生活が続けられる環境を実現していくためには、しっかりとした法人組織の構築が必要だと思っております。

現在、１５０人以上の職員の皆さんがそれぞれの事業所の運営を支えており、法人のミッション実現に向け、利用者支援の向上に日々取り組んでおります。

新しい生活様式への対応など課題の多いスタートではありますが、今後も利用者とご家族の皆さんの期待に応え、この４月に採用となった新人職員が、今後１０年そして２０年と働き続けられる法人組織となるべく、大変微力ではありますが力を尽くしていく所存です。ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします

千歳台福祉園　大野一徳　施設長

平成１９年７月、千歳台福祉園の非常勤職員として入職しました。全くの未経験でしたが、現まもりやま工房の伊藤所長、現どんぐりホーム上町の高橋所長の下、多くのことを学び、常勤職員を目指して支援に当たっておりました。その後平成２０年１０月に縁あって、常勤職員として勤めることになりました。その当時は現相談支援センターあいの中川所長の下で支援について学びました。その他にも、現喜多見夢工房の甲斐所長、現わくわく祖師谷の紀平副施設長など多くの方々と、千歳台福祉園で利用者の方の支援をさせていただき、今日に至ります。

今回、施設長の命を受け、入職当時のことを思い出しました。毎日、緊張しながら出勤し、あっという間に１日が終わる日々でした。その中においても、利用者の皆様との関りが常に楽しく、時にこちらが元気をもらいながら、ここまで務めることが出来たと思います。そして、４月になり当時と同じように、緊張しながら出勤している自分がいます。とても新鮮な気持ちです。そして同じように千歳台に来て、利用者の方の顔を見てほっとしています。

千歳台福祉園は１９年目を迎えました。現在利用者の方が４８名、職員が２６名、合わせて７４名の大所帯です。開所当時の小島施設長が掲げた「安心」、「信頼」、「感謝」。この言葉は今でも職員の基本原則です。この３つの言葉を大切にしながら、その中で、利用者の方もご家族の皆様も職員も共に笑顔で人生を送れるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。

現在、新型コロナウイルスの影響で、思うような運営が出来ず、ご利用者、ご家族の皆様には申し訳なく大変心苦しく思っております。前途は多難ではありますが、楽しめることは楽しみ、この状況を乗り越えた先には、また素敵な未来があると思っています。苦楽を共にしながら、皆様にとってよりよい生活の場となるよう取り組んで参りますので、これからもどうぞ宜しくお願いします。

下馬福祉工房　伊能　亮　施設長

用賀福祉作業所、大原福祉作業所、まもりやま工房を経て７年ぶりに下馬福祉工房に施設長として戻ってまいりました。多くの利用者の皆さんが覚えていて「おかえりなさい」「ひさしぶり」と声をかけてくださり、下馬のムードに改めて温かい気持ちになりました。

設立当初からの下馬の持ち味の一つが発表文化です。一人ひとりが自分のおすすめ体操を全員の前で披露し、毎日の発表の時間ではそれぞれが役割を担って発表をします。多くの方が７年前と全く同じ内容の発表をされていて驚きましたがご本人の表情からは自信や誇らしさ、安心感といったものがうかがえました。
拍手や声援を受けて自分らしさを継続して出していくことで人間力は高まるのだと感じます。

自分が「大事に思われている」と感じ「今の自分でＯＫなんだ」と思えることで自己肯定感が高まります。こうした土台があって、仕事でも生活でも人間関係でも、自分を出しながらも他者と折り合えることが自然にできてくるのでしょう。

自己肯定感を大事に、社会が一変し新しい生活様式を求められる今、できることを考え前向きに丁寧に工房での生活を進めていきたいと思います。

わくわく祖師谷　紀平　訓江　副施設長

古い友人から「福祉の仕事について〇〇年目になりましたね」とメールが届きました。たくさんの方と出会いその時々に合った支援を考え、気がつけば本当に長い時間福祉の仕事に就かせて頂いています。

せたがや樫の木会へ入職して千歳台福祉園、どんぐりホーム上町そして４月からわくわく祖師谷副施設長に就任させて頂きました。
とても小さなグループホームから複合型施設への異動で「わくわく祖師谷はどんなところだろう？」と少々不安な気持ちでいましたが、生活介護はどんぐりホーム上町を利用していた方もいてすぐに「きひらさ～ん」と名前を呼んでくれて、Ｂ型の皆さんは歓迎会を開いて下さり、わくわく祖師谷の楽しさを伝えて下さいました。

新型コロナ感染拡大防止として「新しい生活様式」が求められ試行錯誤の日々ではありますが、日中活動の場として「今日もわくわく祖師谷で過ごして楽しかった」と思って帰って頂けるように、まずは私がわくわく祖師谷の仕事に慣れて笑顔いっぱいになれるようにしていかなければならないと思っています。どうぞよろしくお願いいたします

まもりやま工房　伊藤　俊平　所長

４月よりまもりやま工房の所長に就任しました伊藤俊平と申します。３月までは同法人の千歳台福祉園（生活介護事業所）に１８年間勤務しておりました。就労継続Ｂ型事業所で働くことは初めてになりますので、新たな気持ちで頑張ってまいりたいと思っております。

昨年４月に旧守山小学校を活用してできた「まもりやまテラス」に移転し、まもりやま工房としての２年目、まもりやまテラスに入っている守山地区会館や守山保育園との連携を深め、地域の方々との触れ合いを大切に、複合施設としての強みを活かした運営を行っていきたいと考えております。
また、利用者の皆さんがよりやりがいをもって働けるよう、仕事内容の充実を図るとともに、職員皆で知恵を絞って新商品の開発や販路拡大を行い、まもりやまブランドを確かなものにしていければと考えております。

毎日、コーヒーやクッキーの香りに包まれながら、少しだけ優雅な気持ちで利用者の皆さんや職員との関係づくり、工房の業務に励んでおります。まもりやま工房でもコーヒーやクッキーの販売を行っていますので、見学がてら遊びに来てください。お待ちしております！

どんぐりホーム上町　高橋　里雄　所長

４月から、どんぐりホーム上町の所長として就任いたしました、高橋　里雄と申します。私は、千歳台福祉園、わくわく祖師谷、まもりやま工房、と異動を経て、どんぐりホーム上町にやってきました。たくさんの出会いに感謝しております。

どんぐりホーム上町を利用の方、上町工房の方、フットベースで一緒に活動を行った方、久しぶりにお会いする方、新しく出会う方など、たくさんの利用者さんと出会い携わることができる環境にとても嬉しく感じております。

就任してすぐ、グル―プホームの方から手料理をとても楽しみに、早く一緒に泊まろうと、とてもあたたかく迎えていただいたことが印象的で、とても嬉しく、ありがたく思いました。

久しぶりに会う、ショートステイ利用の方も、変わらず余暇の時間を笑顔で過ごしている姿を見て、安心しております。　一緒に働く世話人の方のテキパキとした動きに驚きながら、事業所運営、料理の腕前も含めて、日々勉強させていただいております。

コロナと上手く付き合うために、安全に配慮し、安心して生活していただける環境を提供できるよう務めてまいります。これからもよろしくお願いします。

用賀福祉作業所　大野　正志　所長

今年度から用賀福祉作業所の所長になりました。せたがや樫の木会では、平成２７年度から、大原福祉作業所の所長を１年、わくわく祖師谷の施設長を３年、昨年度は事務局長を務めさせていただきました。

用賀福祉作業所にも、私が青鳥養護学校に在籍していた時代にご一緒した利用者さんや保護者の方がいて懐かしく感じています。通勤は自転車で２０分程度かけて通っていますが、４月は千歳船橋方面から関東中央病院前、作業所に続く桜並木がとてもきれいでした。

新型コロナウイルス感染防止対策の関係で利用者さんと過ごした時間が２週間もなく、また、家族会も中止になり、皆様ときちんと挨拶も出来ない状況です。緊急事態宣言は全面解除されましたが、引き続きそれぞれの事業所で計画していた行事の実施や外部団体等が計画しているイベント等への参加などについても制限されることが予想されます。

今まで経験したことのない状況で始まった令和２年度ですが、利用者さんとご家族にとって、より良い事業所活動、法人運営を実現するため事業所職員や法人と話し合いをしながら、努力や工夫を行う所存です。利用者さん、ご家族の皆様のご意見をうかがえれば幸いです。１年間よろしくお願いいたします。

退任挨拶

川名　あき　施設長（下馬福祉工房）

平成１１年に世田谷区手をつなぐ親の会を通じて利用者の方々とのご縁をいただき、平成２０年に喜多見福祉作業所とともにせたがや樫の木会の一員となり、平成２６年からは下馬福祉工房でお世話になりました。

２１年間、失敗しては周りの方々に助けられ、何とかかんとかやってきたという気がします。退職にあたり、利用者の皆様、ご家族の皆様、樫の木職員の皆様、世田谷区を始め関係機関の皆様にただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

お一人お一人違うわからなさや生きづらさに歩み寄り、わかる生活を組み立て、わかるコミュニケーション手段で関わりを重ねていく、感覚や感情をフルに使う手探りの日々でしたが、お互いに通じ合った時の喜びは格別でした。

その手がかりとなるのが、ご本人の持ち味を活かすこと、お一人お一人が自分の出番はここぞと輝く姿は本当にすてきでした。そうやって少しずつご本人の世界が広がり、地域社会にも少しずつ歩み寄りの気持ちが広がっていくことを夢見ながら、今後は私も地域の一員として自分の持ち味を活かし、役割を果たしていけたらと思います。皆様、本当にありがとうございました。

亀谷　美由起　副施設長（わくわく祖師谷）

思い起こせば約１０年前、現在３３歳となる自閉症の息子に導かれて障害福祉の世界に飛び込みました。

日々、想像を超えるドラマが繰り広げられ、経験不足から壁にぶち当たることもありましたが、いつも利用者のみなさんは温かく受け入れてくださり、大変だと感じることも喜びに変えることができたように思います。

ブレることなくありのままを表現されている利用者のみなさんは本当に魅力的で、自分の感覚にフタをして〝こうあるべき〟という思考でずっと生きてきた私に、たくさんの癒しと気づきをプレゼントしてくださいました。

私たちは、本来そのままで完璧であって、ただ体験するために生まれてきた、という風に言われたりしますが、何かができるようになることよりも、〝どんな気分で過ごしているか〟、それが幸せのコツなのだと思います。

価値観という物差しに捉われることなく、誰もがありのままの自分を肯定し、相手を尊重し、調和の中で、一瞬一瞬を楽しみながら生きる――そんな世界が、せたがや樫の木会に関わるすべての方々に広がっていくことをお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。これまで支えてくださったみなさまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました

寄付金報告

リーフレットによる寄付金報告
（令和2年2月～令和2年5月末）

上原 富士夫様、他匿名の方
総額 40,000円

≪寄付金等受領報告≫
（令和2年2月～令和2年5月末）

・ＮＰＯ法人ＪＯＹ 理事長　堀田 和子様	30,000円
・北沢優申会様	50,000円
・千歳台福祉園保護者の会 会長　桑原 瑞枝様	53,480円
・わくわく祖師谷生活介護 家族会様	31,579円
・上町工房　家族会様	20,000円
・用賀福祉作業所 家族会様	104,210円
・他、匿名の方々	5,810円

総額295,079円

皆様の暖かいご寄付、ご支援に心より感謝いたします。頂いた寄付金につきましては、今後の法人経営に役立ててまいります。

社会福祉法人せたがや樫の木会
理事長 岩井 雄一

≪広報紙かしの木２６号　寄付金報告のお詫び≫

かしの木２６号の「リーフレットによる寄付金報告」において、ご寄付頂きました方々のお名前をご案内する際、担当のミスから掲載されなかった方々がいらっしゃいました。
お詫び申し上げますとともに改めてご報告致させて頂きます。

阿部 春子様、梶山 正文様、金子 由美子様、川口 和子様、鈴木 牧子様、中原 容様
今後もご支援、ご協力の程、宜しくお願い致します。（本部事務局）

法人からのお知らせ

●令和元年度決算報告について

例年、広報誌紙面にてお伝えしていた前年度決算報告ですが、今年はコロナ禍で理事会の開催等が遅れており、今号にてお伝えすることができませんでした。

理事会終了後速やかに、法人ホームページにて情報を公開致しますので、そちらをご覧ください。

●令和２年度上半期　事業所祭りについて

例年７月～９月は多くの事業所で「夏祭り・秋祭り」が開催されております。しかし今年は新型コロナウイルスの影響もあり、残念ながら現段階で開催の有無が正式に決まっておりません。

開催情報は決まり次第、法人ホームページ等でお伝えをしていく予定となっております。

●衛生用品等物品のご寄付、本当にありがとうございました。

新型コロナウイルスによる感染者が日本国内で確認されて以降、それまで当たり前に入手出来ていた、使い捨てマスク、アルコール消毒液等を補充することが難しくなりました。法人内事業所では使い捨てマスクが無くなり、布製マスクのみで支援を行っている事業所が多々ありました。こういった状況の中、地域の法人様、個人様、利用者や関係者の皆様から、本当に多くの物品のご寄付を頂いております。コロナ禍では中々仕入れるのが難しい状況下での衛生用品のご寄付は本当に助かりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

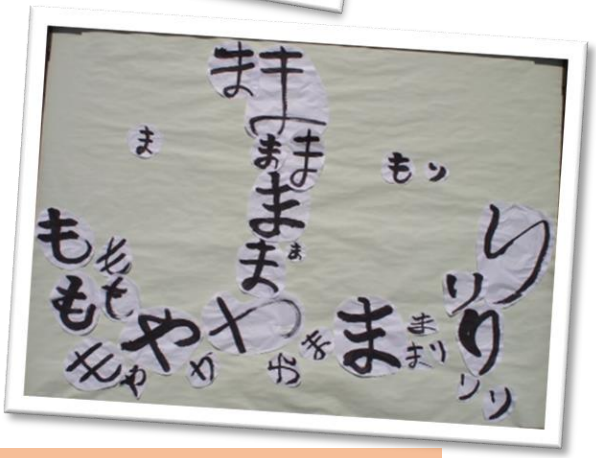
Kashinoki de Art

世田谷区では毎年６月に玉川高島屋を会場として、区内障害者施設に通う利用者の創作活動から生まれた多様な個性と感性あふれる作品を多くの方に見て頂く、アートオムニバス展を開催しております。樫の木会の利用者さんの作品がポスターにも選ばれたこともあり、多くの方が楽しみにしてらっしゃるイベントでしたが、今年度はコロナ禍の影響もあり、残念ながら中止となってしまいました。しかし、作品はある。これは勿体ない。なので、広報誌面を活用してのアート展を行う事といたしました。すべてをご紹介することはできませんが、利用者の皆さんの豊かな表現力溢れる作品をご覧ください

下馬福祉工房
作品名「はがきで仲間とつながろう」
作　者７名
吉澤万見子さん、佐藤真次さん、
田中僚さん、竹前祐一さん、
田中明裕さん、馬場成俊さん、
斉間絵美梨さん

喜多見夢工房
作品名「菜の花いっぱい笑ってる」
作　者　木村　君枝さん

上町工房
作品名「あかあさんとキョエちゃん
とチコちゃんです！」
作品名「私の仲間たち」
作　者　K.Hさん



まもりやま工房
作品名「令和」「まもりやま」
作　者　まもりやま工房の皆さん

職員人事のお知らせ

（令和２年２月１日～令和２年５月31日）

○職員の異動・昇任（令和２年４月１日付）

［管理職］

法人本部	事務局長	成田　修
千歳台福祉園	施 設 長	大野　一徳
下馬福祉工房	施 設 長	伊能　亮
わくわく祖師谷	副施設長	紀平　訓江
まもりやま工房	所　　長	伊藤　俊平
どんぐりホーム上町	所　　長	高橋　里雄
用賀福祉作業所	所　　長	大野　正志

［一般職員］

千歳台福祉園	主　任	佐藤　和貴
まもりやま工房	主　任	吉田　和弘
上町工房	主　任	田島　和美
下馬福祉工房	事務員	杉本　光治
わくわく祖師谷	事務員	小野　賀世
わくわく祖師谷	支援員	青山　光里
砧地域障害者相談支援センター ぽーと　きぬた	相談員	浅沼　栄子

○新規採用

わくわく祖師谷	支援員	梅澤桂一郎（４月１日付）
わくわく祖師谷	支援員	藤代八寿江（４月１日付）
まもりやま工房	支援員	羽石ゆかり（４月１日付）
千歳台福祉園	支援員	影山　良寛（６月１日付）
下馬福祉工房	支援員	大里　真帆（６月１日付）
本部事務局	事務員	齋藤　智瑛（６月１日付）

○退職・再雇用

千歳台福祉園　事務員　岩田　久子

（３月31日付退職、４月１日付再雇用）

○退職者

［管理職］（３月31日付）

下馬福祉工房	施設長	川名　あき
わくわく祖師谷	副施設長	亀谷　美由起（定年退職）

［一般職］

わくわく祖師谷	支援員	大谷　崇麿（２月17日付）
千歳台福祉園	支援員	神山　賢治（３月31日付）
千歳台福祉園	支援員	中井　俊之（４月30日付）
まもりやま工房	支援員	横山　春香（４月30日付）
千歳台福祉園	支援員	石井　淳司（５月31日付）

編集後記

2020年度は前代未聞のイレギュラーな状態でスタートしました。年度が始まってすぐに緊急事態宣言が出され、通所自粛が求められました。日々増え続ける感染者情報、事業所も徹底的な感染予防が求められるなど右往左往の日々、非日常のまま２か月近くが経過してしまったこともあり、法人や事業所の活動も鈍化せざるを得ず、これまで広報誌でお伝えしてきた情報も、今号では限られたものしかお届けできておりません。緊急事態宣言が解除され、社会は少しずつ動き始めました。法人内各事業所も、感染予防に努めながら新しい生活様式の実践を行っています。

年２回発行の「広報紙かしの木」、2020年度末に発行する28号ではこの間の法人の創意工夫や多くの実践などをお伝えしたいと思っております。　令和２年度　広報委員会　島澤・山本

編集発行：社会福祉法人せたがや樫の木会　理事長　岩井雄一
155-0033　東京都世田谷区代田１-29-5　TEL 03-5481-1010　FAX 03-5787-4051
Mail　setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp　HP　http://kashinokikai.net/